

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、認定基本計画において「また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町(まち)」をコンセプトとし、目標として「歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)」、「点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)」、「あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)」を、目標指標として「文化施設等(5施設)利用者数」、「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」、「中心市街地における1階空き店舗数」、「中心市街地における居住人口(社会増減数)」を掲げている。

令和7年度は、「伊丹まちなかバルの開催」「伊丹郷町屋台村の開催」「まちなか大規模イベントの開催」などの主要事業を始めとした各種事業を継続したことに加え、「エリアマネジメント促進事業」等でのイベント実施などの新規事業を実施してきたことにより、中心市街地のにぎわい創出が図られている。

特に本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」は大阪・関西万博等の影響により初めて10月に開催し、打ち上げ開始直前から強い雨が降る中であったものの約6万人が来場され、中心市街地のにぎわい創出や流動人口の増加に寄与した。

また、中心市街地の中心に位置する三軒寺前広場では、タイル舗装等改修工事により約3か月使用できない期間があったが、本やダンス・スポーツ・国際文化などをテーマとした各種イベントやこども向けイベント、官公庁主導の周知啓発イベント等、多種多様なイベントが開催された結果、昨年度とほぼ同じ日数がイベント等開催のため使用され、イベント等ソフト事業による中心市街地全体のにぎわい創出を十分に図ることができた。

中心市街地の空き店舗数については、創業支援事業等を実施し全体として23店舗空き店舗が減少し、1階の空き店舗数としても9店舗減少した。営業店舗数も1,115店から1,131店へと16店舗増加しており、旺盛な出店意欲が見られ事業は順調に進展している。

一方、「市立伊丹ミュージアム」や「図書館」などの文化施設等(5施設)の利用者数については、昨年より減少した。主な要因としては、絵本や漫画の原画展などの集客力のある企画展などの減少等による「市立伊丹ミュージアム」における来館者数の減や「アイホール」閉館による事業縮小によるものと分析している。来館者数は減少したが、各施設による事業は好調なものもあり市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」の開催数が昨年の106回から134回へと大幅に増えている。アイホールの閉館は、不安要素だが、市立伊丹ミュージアムの企画展の集客力によって大幅に改善の可能性もある。

また、中心市街地における居住人口についても、市内全体の人口は微増するも引き続き減少しており継続的な課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	14,828	14,940	14,926	14,790	14,666	
人口増減数	▲65	112	▲14	▲136	▲124	
自然増減数	9	▲30	▲13	▲84	▲46	
社会増減数	▲74	142	▲1	▲52	▲78	
転入者数	527	697	603	535	576	

2. 令和7年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

本計画の折り返しとなる4年目であった令和7年度は、ソフト事業を中心に各事業概ね予定通りに進捗している。

当協議会においては、引き続き「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」、「鑑賞 de 寄っトク！ itami」等のイベントを実施し、「伊丹まちなかバル」を春と秋の2回開催することが出来た。特に秋の「伊丹まちなかバル」においては、従来の土曜日及び平日も含めた5日間の開催に加え日曜日も開催したことにより、イベント実施日だけではなく恒常的ににぎわい創出へと繋げることができた。

また、市立伊丹ミュージアムにおいて開催されている「郷町〇店」では、開催数が昨年からさらに増えており、文化施設と中心市街地内の商店等との連携も順調に進んでいると見受けられる。

それらのことも含め、本計画の目標指標である「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」「中心市街地における1階空き店舗数」においては、今計画期間内では最も良い数字となっており、中心市街地のにぎわい創出が図られたことは評価できる。

一方で、「文化施設等(5施設)利用者数」は施設改修や施設閉館の影響等もあり右肩上がりの増加とはならず、また、「中心市街地における居住人口(社会増減数)」は、市内全体の人口が微増するも中心市街地の居住人口は減少しており、引き続き事業者・商工会議所・まちづくり会社・行政等による連携の上、今後更なる中心市街地活性化のための取り組みを推進されたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)	文化施設等(5施設)利用者数	875,344 人(R1)	926,600 人(R8)	803,335 人(R7)	C	A	C
	中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口(4 エリア合計)	168,064 人(R1)	167,814 人(R8)	135,773 人(R7)	C	C	C
点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)	中心市街地における 1 階空き店舗数	65 店舗(R1)	54 店舗(R8)	64 店舗(R7)	B	A	A
あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)	中心市街地における居住人口(社会増減数)	18 人(R1)	104 人(R8)	21.1 人(R7)	B	B	B

< 基準値からの改善状況 (※1) >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A : 目標達成が見込まれる

B : 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C : 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況 (※1) >」、< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例 : a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

「文化施設等(5施設)利用者数」については、5施設中3施設が昨年度より来館者数が増加したが2施設で減少しており、合計数でも減少となっている。これは、「市立伊丹ミュージアム」の来館者数が減少したことや「東りいたみホール」での舞台照明改修工事(照明卓更新)があったことにより来館者数が大きく伸びなかったこと等による影響で、そのような要因がなかった場合においては増加傾向にあると推測している。しかし、アイホールが令和7年度末で閉館となり今後の活用策が確定していないなど不安要素はある。

しかし、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク! itami」は、利用者アンケートの回答数が昨年度 1,712 件から 1,771 件へと増加し、「図書館連携事業」でもイベント件数・講座参加者が増加するなど個別の事業は順調に進展している。また「日本遺産連携事業」では「清酒発祥の地伊丹」を五感で体感ツアー等を実施し、「清酒発祥の地 伊丹」や「地理的表示(GI伊丹)」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」をPRするこ

とで、市外から中心市街地への誘客を図る等の取り組みを実施する。基準値も下回っており、依然、目標達成は厳しい状況であるが、令和7年度より日本遺産と連携した「体験型周遊イベント事業」の展開など新たな試みにも挑戦しており、引き続き各事業を実施する。

「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」については、中心市街地の4極を結ぶ2軸の結節点である三軒寺前広場を中心に数多くのイベントが開催され、イベント数としては昨年より減少したものの、各エリアとも前年度より流動人口が大幅に増加し、日常的にぎわい創出に繋げることができた。新型コロナウイルス感染症流行後の新たな生活様式(在宅勤務、EC利用)の定着等の影響により基準値を引き続き下回っており、目標達成は厳しい状況ではあるが、令和7年度は、イベント開催の中心的役割を担う三軒寺前広場が3か月使用できなかった中での数値であることから、民間主体による新規イベントの立ち上げ等も積極的に支援しつつ引き続き各事業を実施し、流動人口増加のための施策を展開する。

「中心市街地における1階空き店舗数」については、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした閉店等依然影響や、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業もあり目標値には至らなかったが、基準値を達成した。「創業塾」や「創業支援事業」などの利用者も一定数おり、商工会議所への創業に関する相談も年々増加傾向にありその結果、中心市街地での営業店舗数も過去最多だった令和6年の1,124店を更新し1,131店となり、中心市街地での営業ニーズは継続して見受けられる。令和8年度は「創業支援事業」で新たに創業支援交流会を開催するとともに、「エリアマネジメント促進事業」では、駅ビル空きテナントで、イベントやチャレンジショップ等での有効活用を民間主体で実施する予定であり更にエリアの価値向上を図る。1階空き店舗数は、前年比で9件減少しており、継続事業に新規事業の各事業を確実に実施すること目標の達成が十分に可能と思料している。

「中心市街地における居住人口(社会増減数)」については、本市においても少子高齢化が進む中、市内全体は中心市街地外の大規模マンション開発等により増加するも中心市街地内は減少となった。転入促進・転出抑制を図ることが重要であり、引き続き各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介したPR冊子を刷新し、不動産事業者や各種イベント等での配布を通じて本市の魅力の情報発信を行うことや、子育て世代をターゲットにしたGoogleリスティング広告と不動産紹介サイトを介したDSP広告を活用するなど、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを行う事業を継続することで中心市街地における居住人口の増加を目指す。また、将来にわたり住み続けたいくなるまちを目指し策定するブランド戦略においては、まちの未来をデザインし、職員の広報力を高める専門人材を登用するなど、本市の魅力を新たに発信する事業を実施する。基準値は上回っているが、目標の達成は依然厳しい状況ではあり、前述の継続事業、新規事業を展開しつつ中心市街地を含めた市域全体における居住人口の増加を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「文化施設等(5施設)利用者数」

令和6年度フォローアップにおいては、事業の進捗が概ね順調であり、目標数値も達成見込みであったことから、(A)と見込んでいた。しかし、令和7年度末でアイホールが閉館。また、図書館の来館者数が、順調に増加しているが、基準年に及ばず。市立伊丹ミュージアムの企画展内

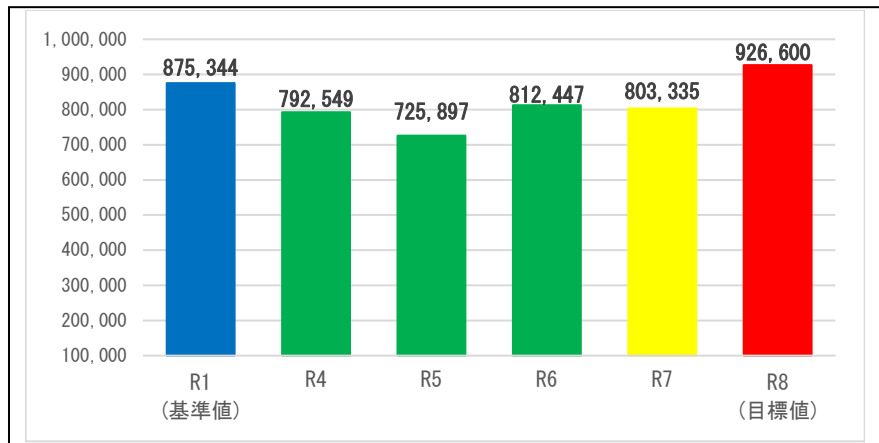
容により達成の可能性もあるが、予断を許さないため、（C）と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（１）「文化施設等（5施設）利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 95～P. 97 参照

●調査結果と分析



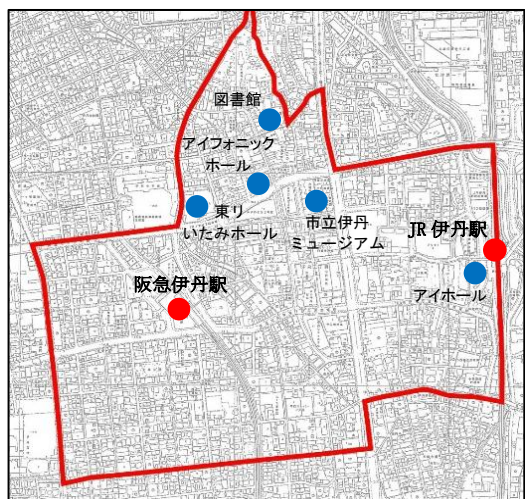
年	(人)
R1	875,344 人 (基準年値)
R4	792,549 人
R5	725,897 人
R6	812,447 人
R7	803,335 人
R8	926,600 人 (目標値)

※調査方法：各文化施設利用者及びイベント入場者集計

※調査月：令和7年度(令和8年3月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：各文化施設(市立伊丹ミュージアム、東りいたみホール、
伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館)



(単位：人)

施設名	R1 (基準年)	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
市立伊丹ミュージアム	※131,164	225,238	129,284	172,944	159,355	
東りいたみホール	194,430	153,522	151,395	168,013	172,826	
伊丹アイフォニックホール	105,570	82,421	92,579	89,645	92,425	
アイホール	39,549	35,464	34,518	35,156	30,764	
図書館	404,631	291,271	313,086	341,972	343,307	

イベント等	—	4, 633	5, 035	4, 717	4, 658	
合計	875, 344	792, 549	725, 897	812, 447	803, 335	

※R1 は、みやのまえ文化の郷(美術館・工芸センター・郷町館・柿衛文庫)＋博物館の人数。

〈分析内容〉

昨年度から引き続き、各文化施設におけるイベントや貸館事業を実施した。「市立伊丹ミュージアム」では、令和6年度と比較すると来館者数は集客力のある企画展が少なかったことにより減少したものの、絵本や北欧モダンデザインなど市立伊丹ミュージアムらしい多様な内容の展覧会を実施したため、令和7年度も基準年を上回り、安定した数字を維持した。「東りいたみホール」「伊丹アイフォニックホール」「アイホール」「図書館」では、新型コロナウイルス感染症流行前の水準には戻っていないが、魅力的なコンサートや講演・講座等の実施により「東りいたみホール」「伊丹アイフォニックホール」「図書館」では、昨年度より来館者数が増加している。特に「東りいたみホール」では、令和7年4月～5月下旬の間、舞台照明改修工事(照明卓更新)があって使用が制限されたが来館者数が増加した。

なお、「アイホール」では、閉館に向けた事業縮小等の影響により令和6年度より減少したと思われる。これらの特殊要因を考慮した場合、文化施設全体としては、回復傾向にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	令和4年4月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,500人増(R4～R8) 最新値：28,900人増(R4～R7) 令和7年度の展覧会観覧者数は66,077人で、昨年度より減少したとはいえ、市立伊丹ミュージアムらしい多様な内容の展覧会を開催し、安定した集客効果があった。また、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」においても前年の開催数106回、参加者5,268人から134回、5607人といずれも増加し、利用者の認知度もさらに高まってきている。これに加え、謎解きイベントや「伝統的な酒造り」ユネスコ無形遺産登録等の影響もあり旧岡田家住宅・酒蔵の見学者が増加し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も市立伊丹ミュージアムの持つ多様な魅力をアピールしつつ、リピーターの満足度向上および新規来館者増に繋がる展示やイベントに力をいれるとともに、当該施設内における魅力ある文化財の活用と中心市街地の店舗等と連携した事業を展開しながら、さら

	なる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。
②. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来㈱、伊丹市)	
事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,100 人増(R4～R8) 最新値：1,771 人増(R4～R7) 令和 7 年度も、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」を引き続き実施し、アンケート回答者数は前年度の 1,712 件から 1,771 件に更に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き 9 月に 10 日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などから、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや暗くなったホールで、懐中電灯を持って夜行性昆虫たちを観察する「むしむし☆ナイトフィーバー」等の体験イベントなど、関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄っトク！itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施する。 なお、令和 7 年度末に、【鑑賞機会の拡大】【創作・発表の場の充実】【多様な層が参加できる文化体験の創出】に取り組み、地域の文化芸術を更に活性化させることを目的に株式会社ベイ・コミュニケーションズと連携協定を締結。 その第 1 弾として、地域の文化芸術振興と市民サービス向上への寄与を目的に、市立伊丹ミュージアムで「みんなでわいわい ベイコムデー」(入場無料サービスデー)を令和 8 年 5 月と 8 月に開催。 芸術鑑賞中は「静かにする」というのが一般的なマナーだが、入場料を無料とすることで、就学前の子どもと一緒に鑑賞してみたい方、友人同士で気軽に鑑賞したい学生などが周りを気にせず“わいわい鑑賞できる日”とする。 この企画を端緒としつつ、今後協定に基づく取り組みを進める。 以上の既存事業や新規事業を実施することで、来館者数の増を目指す。

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

事業実施期間	令和２年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：400人増(R4～R8) 最新値：163人増(R4～R7) 大型商業施設と連携し「清酒発祥の地 伊丹」や「日本遺産」の関連施設を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、伊丹の酒造りや、日本遺産を知る機会を創出し、合計63名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産をPRするための「のぼり」や横断幕を継続して設置した。加えて、JR伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は1987杯提供となり昨年1,942杯より増加。試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約2倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本遺産PR動画の放映や日本酒の利き酒イベントには40名の参加、菰樽作りの実演には延べ60名程度の方が見学に参加した。また、大阪・関西万博関連事業として、会期中に関西国際空港第1ターミナル到着口で伊丹のお酒の試飲や、万博会場内で開催されたひょうごフィールドパビリオンフェスティバルや兵庫県立美術館での出展による清酒発祥の地のPRなど中心市街地内の流動人口の増加に寄与した
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産リーフレットや観光パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なるPRをはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。また、大阪・関西万博関連事業として令和7年度から実施している、「清酒発祥の地 伊丹」を五感で体感ツアーを継続して実施し、「清酒発祥の地」や「日本遺産」ストーリーの理解を深めていただく他、市内外のイベントに出展して「清酒発祥の地 伊丹」や「地理的表示(GI伊丹)」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的造り」をPRすることに加え、日本遺産に関しては、構成5市(神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市)で相互連携した事業を推進し、SNSによる情報発信やエリア内外イベントでのPR、鉄道事業者と連携した周遊企画(デジタルスタンプラリー等)など継続的に実施することにより、市外から中心市街地への誘客を図る。

④. 体験型周遊イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹市など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の歴史資源・文化施設や商店街等を巡る体験型イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：6,240人増(R4～R8) 最新値：20,583人増(R4～R7) 令和7年度は、中心市街地内の店舗を巡る「いたみハロウィンツアー」や、中心市街地内の店舗や公共施設等を巡り職業体験を行う「はたら子」のほか「リアル謎解きゲーム」等、民間が主体となった各種体験型イベントが実施された。 また、新たに日本遺産に関連した下記の①及び②の事業を実施した。 従来からの各種体験型イベントや新たなイベントにより中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。 ①イベント名：神戸線ええたん魅力発見スタンプラリー 日本遺産を巡る～日本酒と文化に酔いしれる旅～ 内容：JR西日本のWESTERアプリを使用した、日本遺産「伊丹と灘五郷」構成5市を巡る周遊イベント。JR西日本、阪急電鉄、阪神電気鉄道の3電鉄連携事業。 実施期間：【秋】2025年10月14日～2025年12月14日 【冬】2025年12月15日～2026年2月15日 日本遺産チャレンジスポット(伊丹市)： 【秋】白雪ブルワリービレッジ長寿蔵、市立伊丹ミュージアム、阪急伊丹駅 【冬】伊丹老松酒造直販所、市立伊丹ミュージアム、阪急伊丹駅 伊丹市チャレンジスポットスタンプ押印数：【秋】538 【冬】897 ②イベント名：日本遺産「伊丹と灘五郷」ミッションラリー～二大銘酒のふるさと巡り～ 内容：阪神間日本遺産推進協議会と(株)エキ・リテール・サービス阪急阪神との共催事業。構成5市の各施設をスポットに認定し、スポット毎に課されている様々なミッションをクリアしてポイントを獲得する周遊事業。一定数のポイントを獲得することで日本遺産「伊丹と灘五郷」にちなんだ賞品の抽選に応募できる。共催事業の結果、各駅でのポスター掲示やデジタルサイネージへの掲載、車内吊りなどの鉄道広告へご協力いただき、広域かつ幅広い年齢層への

	PRを実施。通常敬遠されがちな購入ミッション（白雪ブルワリービレッジ長寿蔵、伊丹老松酒造直販所、伊丹観光物産ギャラリー）の達成割合も約24%と高く、多くの参加者に日本酒に触れていただき日本遺産関連商品を体感してもらえ、経済効果にも寄与することができた。 実施期間：令和8年1月16日～令和8年3月15日 参加者数：1,004名 ミッション達成数（伊丹市）：637
事業の今後について	令和8年度は、新たに「伊丹謎解き街歩き」として、市内観光振興回遊イベントを市商工会議所が主体となり実施予定。今後も、民間が主体となった各イベントとPR等の連携を行うことで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑤. 図書館交流事業（伊丹市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,000人増（R4～R8） 最新値：466人増（R4～R7） 令和7年度は、年間延べ343,407人が図書館に来館した。図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて246件（参加人数：7,572名）が開催され、前年のイベント数237件、参加人数7,240人と比較して参加者数は更に増加した。特にコンサートや専門家の講演会など、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を積極的に実施し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

未だ利用者数について新型コロナウイルス感染症流行前の水準には戻っていないものの、主要事業は概ね順調に進捗している。

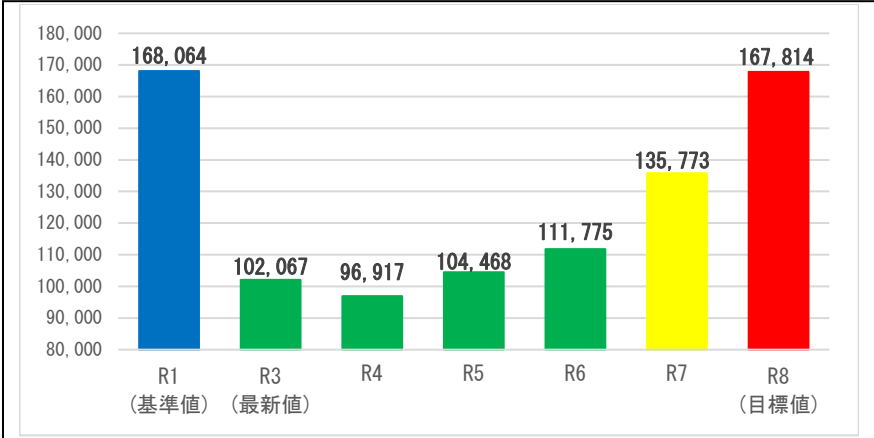
今後は、各文化施設でのさらなる来館者増加を目指すため、各イベントについてより魅力ある内容となるための創意工夫を行うとともに、「市立伊丹ミュージアム」を中心として様々な企画を展開していく。具体的には、エリアマネジメント促進事業と連携し駅ビル空きテナントを活用した演劇ワークショップ等を開催して芸術文化に親しむ機会を増やすことで、文化体験を施設外の人流が多い駅ビル内の空き店舗で実施することで文化体験を気軽に身近に感じていただき来

館動機に繋げ来館者等の増加に寄与する事業を新たに展開する。また、既存事業である「鑑賞 de 寄っトク！ itami」や日本遺産関連事業を強化していくことで中心市街地全体の回遊性向上も目指す。

（２）「中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口 (4 エリア合計)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 98～P. 105 参照

●調査結果と分析



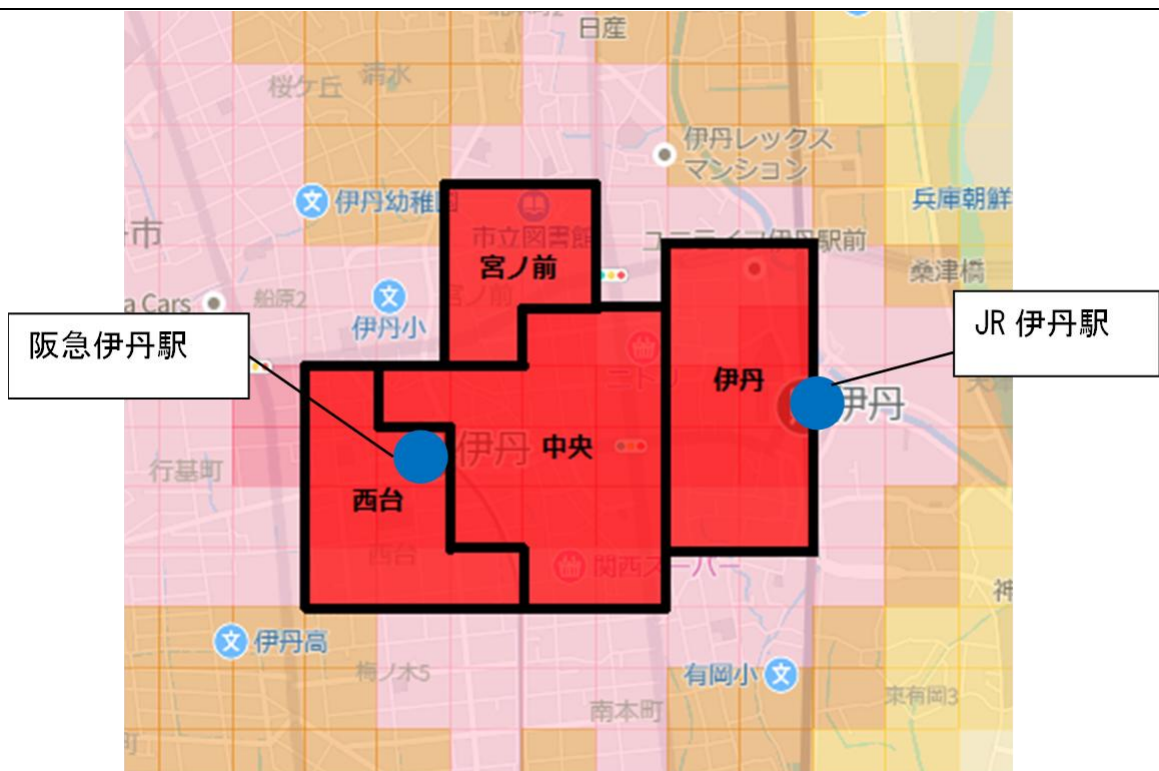
年	(人)
R1	168,064 人 (基準年値)
R3	102,067 人
R4	96,917 人
R5	104,468 人
R6	111,775 人
R7	135,773 人
R8	167,814 人 (目標値)

※調査方法：「DS. INSIGHT」を使い、中心市街地内で一定時間(2 分以上)滞在する住民と来訪者の延べ人数。

※調 査 月：令和 7 年度(令和 8 年 3 月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：「DS. INSIGHT」で設定可能な最小 125m 四方のメッシュを組み合わせ、本計画の計画区域を超えない範囲で形成した「伊丹」、「宮ノ前」、「中央」、「西台」の 4 エリア



(単位：人)

年度	月	エリア別 1 日あたり流動人口（平均値）				4 エリア合計
		伊丹	宮ノ前	中央	西台	
R1	10～12	44,170	27,554	56,136	40,204	(基準値) 168,064
	1～3	40,420	23,220	53,333	39,173	(参考値) 156,146
R2	4～3	29,842	17,424	40,426	29,858	(参考値) 117,550
R3	4～11	25,681	15,289	34,684	26,413	102,067
R4 (1 年目)	4～3	25,519	13,248	32,917	25,233	96,917
R5 (2 年目)	4～3	27,319	14,488	35,354	27,307	104,468
R6 (3 年目)	4～3	29,473	15,585	37,726	28,990	111,775
R7 (4 年目)	4～3	36,574	18,961	45,234	35,005	135,773
R8 (5 年目)	4～3					

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症流行前の水準には未だに戻らないものの、流行後の流動人口としては昨年度からさらに増え、最多となり一定回復基調にある。本市を代表するイベントである「伊丹まちなかバル」を春と秋の年 2 回開催し、計 11,000 人の参加者が中心市街地を訪れた。さらには、中心市街地の 4 極 2 軸の結節点である三軒寺前広場では、「イタミ朝マルシェ」も定期的で開催し、さらには「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」や「伊丹郷町屋台村」が開催されたほか、本やダンス・スポーツ・国際文化などをテーマとした各種イベントやこども向

けイベント、官公庁主導の周知啓発イベント等、延べ 62 日間三軒寺前広場が活用された。令和 7 年度は 6 月～8 月にかけて三軒寺前広場が工事のため使用できなかったが、通年使用可能であった場合、令和 6 年度よりも使用日数も増加したと思われる。

また、本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」が初めて 10 月に開催し、打ち上げ直前から激しく雨が降るあいにくの天候となったが音楽連動花火によるフィナーレや露店の出店など多くの人に楽しんでもらうことができた。令和 6 年度より設定した有料観覧席は令和 7 年度も引き続き設定した結果完売となった。全体の来場者数は約 60,000 人となり、会場近くの中心市街地における回遊も促進された。

令和 8 年度においては、エリアマネジメント促進事業の一環で阪急伊丹駅の駅ビルの空き区画を活用し、軽物販等のチャレンジショップや演劇ワークショップ等、様々なイベント等を開催予定。中心市街地に来街する動機を新たに創出しつつ、三軒寺前広場以外のにぎわい創出の軸・中心を醸成することで回遊性を高めたい。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 三軒寺前広場活用イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	三軒寺前広場でマルシェイベント、元気をテーマにしたイベント等を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,187 人増(R4～R8) 最新値：1,778 人増(R4～R7) 令和 7 年度は、毎月 1 回日曜日に実施する「イタミ朝マルシェ」を 8 回開催（雨天中止 2 回、広場工事による未開催 2 回）し、延べ 8,925 人が参加した。過去最高であった昨年度の 10,487 人と比べると減少しているが、雨天・工事による中止の影響が大きく、開催 8 回中、6 回は前年同月よりも多い参加人数となった。なお、大型商業施設と連携したスタンプラリーも引き続き行い、朝マルシェ会場に誘客するなどの連携も実施している。12 月には 5,000 人が参加した「クリスマスマーケット」を開催し、2 月の白雪蔵まつりと同時開催の「いたみ冬の元気まつり」には大雪にもかかわらず 4,000 人が参加した。その他、民間事業者が主体となって、スポーツや国際文化等をテーマとしたイベントやこども向けのイベントも開催され、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、三軒寺前広場を活用したマルシェ形式のイベントを継続的に実施しつつ、民間主体イベントの積極的な開催を促しながらさらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。特に民間主体による新規イベント開催の際には、計画段階から伴走支援を行い、にぎわい創出に寄与するよう取り組む。

②. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	令和 4 年 4 月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：13,760 人増(R4～R8) 最新値：282 人増(R4～R7) 令和 7 年度の展覧会観覧者数は 66,077 人で、昨年度より減少したとはいえ、伊丹ミュージアムらしい多様な内容の展覧会を開催し、安定した集客効果があった。また、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」においても前年の 106 回開催 5,268 人参加から 134 回開催 5,607 人参加へと増加し、利用者の認知度もさらに高まってきている。これに加え、謎解きイベントや「伝統的な酒造り」ユネスコ無形遺産登録等の影響もあり旧岡田家住宅・酒蔵の見学者が増加し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も市立伊丹ミュージアムの持つ多様な魅力をアピールしつつ、リピーターの満足度向上および新規来館者増に繋がる展示やイベントに力をいれるとともに、当該施設内における魅力ある文化財の活用と中心市街地の店舗等と連携した事業を展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：3,333 人増(R4～R8) 最新値：3,300 人増(R4～R7) 大型商業施設と連携し「清酒発祥の地 伊丹」や「日本遺産」の関連施設を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、伊丹の酒造りや日本遺産を知る機会を創出し、合計 63 名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産を PR するための「のぼり」や横断幕を継続して設置した。加えて、JR 伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は 1987

	杯提供となり昨年 1,942 杯より増加。試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約 2 倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本遺産 PR 動画の放映や日本酒の利き酒イベントには 40 名の参加、菰樽作りの実演には延べ 60 名程度の方が見学に参加した。また、大阪・関西万博関連事業として、会期中に関西国際空港第 1 ターミナル到着口で伊丹のお酒の試飲や、万博会場内で開催されたひょうごフィールドパビリオンフェスティバルや兵庫県立美術館での出展による清酒発祥の地の PR など中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産リーフレットや観光パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なる PR をはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。また、大阪・関西万博関連事業として令和 7 年度から実施している、「清酒発祥の地 伊丹」を五感で体感ツアーを継続して実施し、「清酒発祥の地」や「日本遺産」ストーリーの理解を深めていただく他、市内外のイベントに出展して「清酒発祥の地 伊丹」や「地理的表示(GI伊丹)」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的造り」を PR することに加え、日本遺産に関しては、構成 5 市（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市）で相互連携した事業を推進し、SNS による情報発信やエリア内外イベントでの PR、鉄道事業者と連携した周遊企画（デジタルスタンプラリー等）など継続的に実施することにより、市外から中心市街地への誘客を図る。

④. 公共交通を活用した中心市街地誘客事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	大阪国際空港（伊丹空港）と中心市街地とを結ぶ「空港アクセスバス」の利便性 PR や中心市街地内でのイベント、各店舗との連携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中心市街地と伊丹空港を結ぶ 25 系統便は、ラッピング車両等で運行しており、令和 7 年度は、乗車人数が昨年 526,525 人より 33,755 人増加し、年間 560,280 人が乗車した。また、「空港ア

	クセスバス」のラッピング車両は、市内の各路線を走行しており、市民をはじめ多くの人に「空港アクセスバス」の利便性PRを行った。 また、市内在住の小学生に向けて、夏休みの期間中、市営バス他の対象路線が乗り放題となるチケット「いたみっ子おでかけパス」を販売して、349人が利用した。 加えて、5月及び10月に計2回、中心市街地内で開催した「伊丹まちなかバル」において、100 円の特別割引乗車券を発行し、869 人が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後、大阪国際空港(伊丹空港)の利用者数の増加にあわせて「空港アクセスバス」の利用者も増加することが想定されることから、さらなる利便性PRを行うとともに、中心市街地内でのイベントや、「いたみっ子おでかけパス」、交通局が取り組む中心市街地をはじめとした市内の店舗との連携事業も継続することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑤. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来㈱、伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度も、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」を引き続き実施し、アンケート回答者数は前年度の 1,712 件から 1,771 件に更に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き9月に10日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などから、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや暗くなったホールで、懐中電灯を持って夜行性昆虫たちを観察する「むしむし☆ナイトフィーバー」等の体験イベントなど、関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄っトク！itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うと

	ともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施する。 なお、令和7年度末に、【鑑賞機会の拡大】【創作・発表の場の充実】【多様な層が参加できる文化体験の創出】に取り組み、地域の文化芸術を更に活性化させることを目的に株式会社ベイ・コミュニケーションズと連携協定を締結。 その第1弾として、地域の文化芸術振興と市民サービス向上への寄与を目的に、市立伊丹ミュージアムで「みんなでわいわい ベイコムデー」（入場無料サービスデー）を令和8年5月と8月に開催。 芸術鑑賞中は「静かにする」というのが一般的なマナーだが、入場料を無料とすることで、就学前の子どもと一緒に鑑賞してみたい方、友人同士で気軽に鑑賞したい学生などが周りを気にせず“わいわい鑑賞できる日”とする。 この企画を端緒としつつ、今後協定に基づく取り組みを進める。 以上の既存事業や新規事業を実施することで、来館者数の増を目指す。
--	--

⑥. 図書館連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度は、年間延べ343,407人が図書館に来館した。図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて246件(参加人数：7,572名)が開催され、前年のイベント数237件、参加人数7,240人と比較して参加者数は更に増加した。特にコンサートや専門家の講演会など、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を積極的に実施し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

⑦. いたみ花火大会の開催(いたみ花火大会実行委員会、伊丹市)

事業実施期間	昭和56年度～【実施中】
--------	--------------

事業概要	中心市街地隣接地域で花火大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和７年度は、中心市街地の東側に隣接する猪名川河川敷で 10 月に花火大会を開催し、約 60,000 人の集客があった。今回の花火大会では、音楽連動花火によるフィナーレや露店出店、有料観覧席の設置などの取り組みを行った。JR 伊丹駅に隣接する大型商業施設をはじめ、中心市街地内の飲食店等も多くの人々が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	中心市街地全体の賑わい創出のため、令和８年度については、終了時間を例年より 1 時間早め 19 時 15 分とすることで、飲食店等への誘客を促進し、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑧. まちなか大規模イベントの開催(商店街、民間事業者、伊丹市など)

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	四季おりおりの大規模イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和７年度は、夏には伊丹小学校で「伊丹ふれあい夏まつり」が、金剛院においては「愛染まつり」が開催された。秋には「宮前まつり」(10,000 人参加)、冬には「白雪蔵まつり」(10,000 人参加)、が行われるなど、四季折々のイベントが開催され中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も引き続き、中心市街地内における大規模イベントを開催し、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。 なお令和８年度においては、関西最大級のローカルフェスとして 2 日間で約 2 万人が参加する「ITAMI GREENJAM」と連携して、フェス来場者がリストバンドを提示することにより市内店舗で様々なサービスを受けることができる回遊プロジェクトを官民連携で実施予定。中心市街地以外で開催のイベントのにぎわいも取り込み交流人口の増加を目指す。

⑨. 伊丹まちなかバルの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(春・秋)定期的に中心市街地内の飲食店を中心に食べ歩き飲み歩きイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は 5 月の春バル及び 11 月の秋バルを開催した。 春バル(第 32 回)は、69 店舗(初参加 4 店舗)が参加し、チケット換金枚数は 18,230 枚となった。また、秋バル(第 33 回)は、67 店舗(初参加 7 店舗)が参加し、チケット換金枚数は 17,640 枚となった。 31 回目の開催より始めた平日開催について、引き続き実施。第 32 回の参加店アンケートによると参加店の 61%が通常の平日より来店者数が増えたと回答し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。 その他、本部がある三軒寺前広場には協賛企業のイベントブースをはじめ、「阪神間日本遺産推進協議会」による PR ブースも出展され、伊丹の日本酒の無料試飲やおおぞら講座も行われるなど日本遺産の周知・啓発が行われた。
事業の今後について	今後も、イベント規模を維持しながらバルを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑩. 伊丹郷町屋台村の開催(伊丹郷町商業会)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(夏・冬)定期的に三軒寺前広場で屋台での飲食イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 3 年度から年 2 回を年 1 回、開催日数を 3 日から 2 日へと変更して、令和 7 年度

	は 10 月 4 日、5 日に開催した。両日とも商業会に加盟する飲食店の屋台をはじめ、ステージでは歌やダンスなどが行われ、来場者数は 10,000 人となり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、伊丹郷町屋台村を継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑪. アリフリ事業の開催(アリオ名店会)

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	商店街主催のフリーマーケットを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は 4 月と 10 月に JR 伊丹駅近くの有岡城跡史跡公園にて「アリオ de ハンドメイド&フリーマーケット」を開催し、フリーマーケットのほか、カリヨンの生演奏やスタンプラリー、ハロウィンビンゴ大会、ハンドメイドのワークショップ等が行われ、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、アリフリを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑫. 日本酒の日記念イベントの開催(伊丹酒造組合、伊丹市など)

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	清酒発祥の地 PR のため日本酒の日イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 例年、10 月 1 日の「日本酒の日」に中心市街地において清酒を PR するイベントを開催しており、令和 7 年度は、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵駐車場において、伊丹酒造組合蔵元の 4 銘柄のきき酒セット等の販売をはじめ、鏡開きも行われた。先着 100 人にはオリジナル木柀のプレゼント企画では、整理券配布時間の前に定員に達するなど好評で、鏡開きの後に行われた振舞い酒にも長蛇の列が出来るなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。

事業の今後について	今後も、清酒をPRするイベントを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。
-----------	---

⑬. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に14階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 西台3丁目に14階建て83戸の分譲マンションが令和4年7月に建ち、間取りも1LDK～4LDKと単身からファミリー層が購入可能な物件で完売となるなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑭. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中央4丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加

	を目指す。
--	-------

⑮. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～令和5年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	西台5丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所が令和5年4月にオープンし、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、イベント等の開催の主要なスポットである三軒寺前広場が3か月間工事で使用できなかったにもかかわらず、中心市街地内の流動人口は昨年度を上回り新型コロナウイルス感染症流行後としては最多の135,773人であった。

今後は、流動人口をさらに増加させるため、三軒寺前広場をはじめとした中心市街地内での様々なイベントについて継続して実施していくとともに、民間団体が主催するイベントとも連携、協力して、回遊性向上や来街機会の増加に寄与する事業に取り組んでいく。

また、イベント等の開催を希望する者が窓口・電話で相談にこられた際は、事業内容を伺い、イベントの共催等の許可申請や道路・公園の占用・使用申請の手続きなどを丁寧に案内して、積極的に開催に向けた支援を行う。

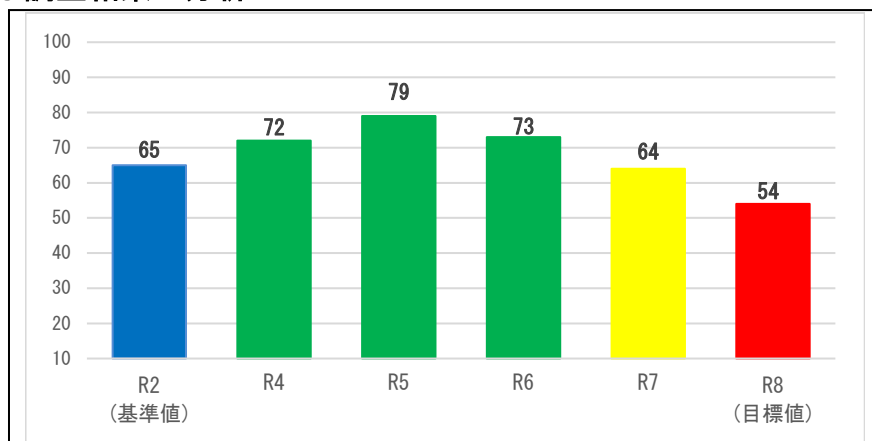
なお、令和7年度は民間分譲マンションや認可保育所の建設・開設はなかったが、中心市街地内の他の民間分譲マンションや認可保育所等の建設・開設動向を注視しつつ、庁内の関係部署と連携しながら、流動人口の増加を目指していく。

(3)「中心市街地における1階の空き店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画P.106～P.107参照

年	(店舗)
R2	65店舗 (基準年値)

●調査結果と分析



R4	72 店舗
R5	79 店舗
R6	73 店舗
R7	64 店舗
R8	54 店舗 (目標値)

※調査方法： 中心市街地内を現地確認(視認ならびに近隣への聞き取り)

※調査月： 令和7年度(令和7年10月～11月)

※調査主体： 伊丹市

※調査対象： 中心市街地

(単位：店舗)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7	6	4	
	伊丹	12	10	9	10	14	12	
	中央	70	74	73	74	74	64	
	西台	40	43	55	51	53	44	
	計	129	134	144	142	147	124	
1階空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7	6	4	
	伊丹	10	7	7	9	11	8	
	中央	33	32	36	40	40	34	
	西台	15	20	22	23	16	18	
	計	65	66	72	79	73	64	

〈分析内容〉

「中心市街地の1階空き店舗数」については、基準年より1店舗減少、前年令和6年度との比較では9店舗減少し、64店舗となった。また「中心市街地の空き店舗数」全体では124店舗となり基準年より5店舗減少、前年令和6年度の比較では23店舗と大きく減少した。

エリア別にみると、宮ノ前は基準年から3店舗減の4店舗(割合：10.8%→6.3%)、伊丹は基準年から2店舗減の8店舗(割合：15.4%→12.5%)、中央は基準年から+1店舗の34店舗(割合：50.8%→53.1%)、西台は基準年から+3店舗の18店舗(割合：23.1%→28.1%)と、中央が一番多く、増加割合でも中央が一番となった。

また、令和7年度の空き店舗を業種別にみると、飲食が36店舗(宮ノ前0店舗、伊丹1店舗、中央25店舗、西台10店舗)と一番多く、次いで物販が31店舗(宮ノ前4店舗、伊丹4店

舗、中央 18 店舗、西台 5 店舗)、サービス 29 店舗(宮ノ前 0 店舗、伊丹 3 店舗、中央 14 店舗、西台 12 店舗)、その 25 店舗、不明 3 店舗となった。

1 階の空き店舗は 3 期計画開始後、初めて基準年から減少し、令和 5 年度から 3 年連続の減少傾向となり順調な推移を示している。

減少の要因としては、空き店舗であった 1 階部分について、新たに 17 店舗が出店されており、昨年度の 19 店舗新規出店に引き続き高い出店動向で推移していることがあげられる。

中心市街地内の営業店舗としては昨年度より 16 店舗増加しており、商工会議所への創業に関する相談も年々増加傾向にあり、中心市街地での新規出店意欲は継続して高い水準に見受けられる。

近年新規出店が高い水準にあるのは、市役所や商工会議所の創業支援の効果と思料する。また、平成 24 年から、毎月 1 回開催している「イタミ朝マルシェ」では、ほぼ毎回新規出店希望者の申し込みがあるなど、チャレンジショップのような役割を担ってきたことも挙げられる。来場者数等も過去最高を更新する傾向が続いており、イベントでの来場者との交流に加えて出店者同士の交流機会ともなっている。そのようなにぎわいを体験した新規出店希望者が中心市街地の可能性を感じて、リアル店舗の出店に至っているものと推測しており、実際に商業者からの声も頂いている。

引き続き「商店街等活性化補助事業」を通じて各商店街への誘客を促進するとともに、「創業塾」や「創業支援事業」を通して新たな商売の担い手を育成し、「エリアマネジメント促進事業」によって、エリアの価値向上を図ることで、中心市街地における 1 階空き店舗の解消に取り組む。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 創業支援事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめ、市内における新規創業に対し、店舗等の賃借料の一部を補助し、創業者の負担を軽減する等の支援を予算の範囲内において行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度) ※中心市街地活性化ソフト事業の支援対象は、中心市街地区域内で実施する分のみ。
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：15 件減少(R4～R8) 最新値：8 件減少(R4～R7) 令和 7 年度は、市全域で 31 店舗を支援したが、中心市街地内で 8 店舗が新規に創業し、昨年度の 8 店舗創業と同じ件数で、高い数字を維持している。8 店舗のうち 1 階の出店は 5 件となり、中心市街地における空き店舗数の解消に寄与した。
事業の今後について	令和 8 年度には、「創業支援交流会」を新たに実施するなど、本事業の拡充を予定している。既存の事業も継続し、創業希望者・新規出店者への効果的な情報提供を行いながら、引き続き中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

②. エリアマネジメント促進事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹まち未来(株)、伊丹市、伊丹商工会議所、商業者組織など)

事業実施期間	令和４年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで、各エリアの価値向上につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業(経済産業省) (令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：２件減少(R4～R8) 最新値：０件減少(R4～R7) 令和７年度は、道路等の公共空間を活用した各エリア価値向上に資する取組みについて引き続き協議・検討を行い、令和７年１０月末に３日間にわたり、阪急伊丹駅西側の西台エリアの地域資源（２つの公園、駅ビル、道路など）を活かし、提灯、LED キャンドル、アーティストによる光のオブジェ等のイルミネーションと軽食販売等のナイトマーケットで非日常を演出し、地域の魅力を再発見するイベントを実施し結果、延べ１万人の来場者数を記録した。 同イベントでは、近隣の店舗に提灯ライトアップや「光るグラス」を使ったキャンペーンに参加してもらい、会場と商店を巡る回遊性を生み、エリア全体の賑わい創出を目指す試みを行った。 またイベントの実行委員会には、商工会議所、まちづくり会社、自治体、商店会、自治会子ども部など多様な主体が参加する仕組みをつくり、LED キャンドルワークショップ、ナイトマーケット等で、交流が生まれ、持続可能な賑わいづくり、コミュニティの再生強化にも効果があった。 令和８年度は、駅ビルの空き店舗等を活用したイベント等を企画中。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における１階の空き店舗解消を目指す。

③. 空き店舗情報バンク・マッチング事業(伊丹市、伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和３年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗情報を一元化し、出店を検討している者に空き店舗や制度等に関する情報を提供するための発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：５件減少(R4～R8) 最新値：１件減少(R4～R7)

	令和7年度においては、空き店舗情報の掲載依頼はなかった。
事業の今後について	引き続き宅建協会をはじめ、本市の不動産事業者への案内を通じて、中心市街地内の空き店舗の掲載を行っていくとともに、本市独自の支援制度の案内もあわせて行えるようにホームページの充実を図ることで、中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

④. 商店街等活性化補助事業(伊丹市)

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	活性化を推進しようとする市内の商店街等イベント等のソフト事業の実施に要する費用の一部を補助することにより、市内商業の振興発展を図り、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度は、市内17商店会組織のうち11商店会に補助を行い、中心市街地内は8商店会であった。商店会が行う「伊丹郷町屋台村」等、歳末セールや抽選会等の活性化イベント、商店街等PRなどへ補助することで、中心市街地内の魅力向上が図られ、中心市街地における1階の空き店舗解消に寄与した。
事業の今後について	今後も、商店会組織が独自で行う活性化イベント、商店街等PRへの支援を継続的に行い、さらなる中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

⑤. チャレンジショップの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街などの空き店舗、空きスペースなどを利用して、起業を考えている方等に情報提供し、安い家賃で一定期間試験的に貸し出すことで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度は、民間において中心市街地内の1階部分の空き店舗を週・日単位で起業希望者へ貸し出す取り組みが行われるなど、創業の促進が図られた。

	また、エリアマネジメント促進事業を進めるで、阪急伊丹駅の駅ビルの空き区画を活用した事業についてビル管理会社より提案があり、現在、軽物販等のチャレンジショップの実施について詳細検討中。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

⑥. 創業塾の開催（伊丹商工会議所、伊丹市）

事業実施期間	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	創業準備中の方や、将来、起業を考えている方誰もが参加できる創業塾や、女性だけを対象にした女性創業塾を開催し、開業に向けてサポートし、商業の担い手を育成することで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－創業相談も増えている ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1 階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は、創業塾に 18 人、女性創業塾に 16 人が受講され、創業の促進が図られた。 商工会議所では、創業塾の開催のみならず、伊丹の『食』の魅力を発信することを目的として「伊丹の匠 食のこだわり・わざカタログ」を 7,000 部作成し、厳選した事業所を紹介したり、スイーツ&ベーカリーデジタルスタンプラリーとして、対象店舗で、購入飲食し店舗設置のQRコードを読み取りスタンプを手に入れ、賞品を手に入れる企画を実施した。スタンプラリーでは、1,728 件の参加があった。その他、様々な企画を実施して、中心市街地の活性化に取り組んでいる。
事業の今後について	今後は、継続して創業塾を開催するとともに、当該創業塾参加者が中心市街地において実際に創業したかどうかの追跡調査等も行いながら、さらなる中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

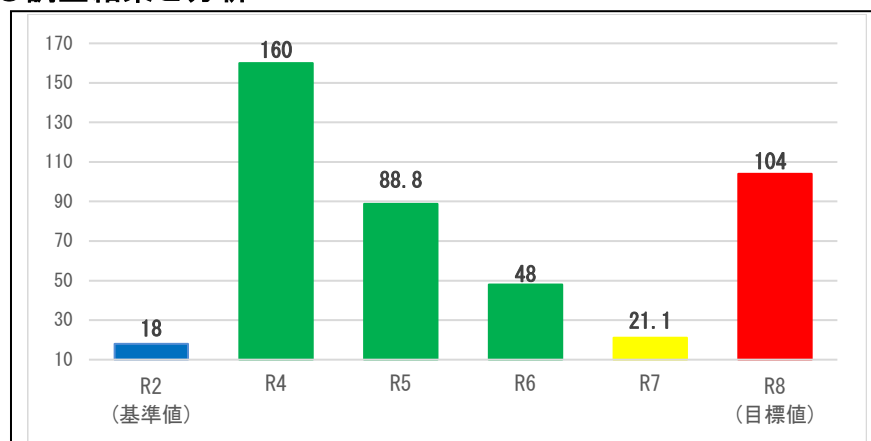
中心市街地全体で、空き店舗数は減少し、一方、営業店舗は増加している。主要事業は概ね順調に進捗し、中心市街地における 1 階の空き店舗数も令和 7 年度に引き続き減少し、中心市街地での新規出店が継続して見受けられる状況にある。

今後も引き続き、エリアの価値向上に資する事業に取り組むとともに、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

(4)「中心市街地における居住人口(社会増減数)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 108～P. 109 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
R2	平均 18 人/年 (基準年値)
R4	平均 160 人/年
R5	平均 88.8 人/年
R6	平均 48 人/年
R7	平均 21.1 人/年
R8	平均 104 人/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データ＋国勢調査推計人口(補完的)

※調査月：令和7年(令和8年1月)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：中心市街地

(単位：人/年)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
実績値	転入(a)	633.8 ※531.1	527	697	603	535	576	
	転出(b)	512.8	601	555	604	587	654	
	社会増減 (a-b)	121.0 ※18.3	▲74	142	▲1	▲52	▲78	

※基準年であるR2は、H29～R2までのマンション開発の影響を勘案した値を採用。

マンション開発戸数×1戸当たり2.36人/世帯(伊丹市平均世帯人員)として算出。

〈分析内容〉

令和7年度において社会増減数は78人減となり、市内全体の減少に合わせて中心市街地内も減少しているが、令和7年4月には、エリア内に民間の児童クラブを1施設新たに誘致し開設するなど子育て支援施設を整備し、居住環境を向上させる事業も進めてきたところ。民間児童クラブについては、令和8年4月にもエリアに新たに2施設開所予定。

引き続き期各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で子育て世代をターゲットにし

た Google リスティング広告と不動産紹介サイトを介した DSP 広告を活用し本市の魅力発信を行うことや、伊丹商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供する「地域子育て拠点支援事業」など、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを継続することで、中心市街地における居住人口の増加を目指す。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西台 3 丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に 14 階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：196 人増(R4～R8) 最新値：196 人増 西台3丁目に 14 階建て 83 戸の分譲マンションが令和 4 年 7 月に建ち、間取りも 1LDK～4LDK と単身からファミリー層が購入可能な物件であり完売となったことから、本市の平均世帯人員 2.36 人を掛け合わせると、目標値としていた 196 人の中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	当該事業は当初の目標値を達成した。今後は、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

②. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8)※ 最新値：85 人増 (R4) (伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園 2 保育園の合算値) 中央 4 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。

事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れや毎年の入園人員状況等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
-----------	---

③. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～令和5年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85人増(R4～R8)※ 最新値：85人増(R4)(伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園2保育園の合算値) 西台5丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所を令和5年4月にオープンし、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所のオープンや定員割れ、毎年の入園人員等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

④. 公衆トイレ改修事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる中心市街地内の2カ所の公衆トイレについて、バリアフリー設備など誰もが使いやすい機能の充実、改修等を行うことで、歩きやすく快適な都市空間の創出や中心市街地内での回遊性を高め、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業(総務省) (令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：— ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度はJR伊丹駅、阪急伊丹駅前の公衆トイレについて、引き続き適切な維持管理を実施するとともに、中心市街地内の公衆トイレの在り方について、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく中長期的な視点で検討することとした。
事業の今後について	引き続き適切な維持管理を実施するとともに、中心市街地内の公

て	衆トイレの在り方について、中長期的な視点で住環境向上に資する事業の検討を行い、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
---	---

⑤. 地域子育て支援拠点事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、親子で気軽に集い、遊びや子育て家庭の相互交流を促進し、子育て家庭と地域をつなぐ場として機能させ、地域ぐるみで子育てを応援する体制を整える。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金(内閣府)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 「いたみむっくむっくルーム」では、0～3 歳児の子どもと保護者(市内在住・在勤)が気軽に利用できる親と子の育ちの場として、令和 7 年度は、昨年の年間 11,360 人から 578 人増加し、11,938 人の利用があり、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を様々進めている。
事業の今後について	今後も、利用人数の増加に向けた P R 等の取り組みなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑥. シティプロモーション事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	対象を子育て世代に特化した「住みたいまち伊丹」、清酒文化を伝える「清酒発祥の地 伊丹」など、ターゲットを絞った、戦略的なシティプロモーションを推進することにより、「まちの魅力」を戦略的・効果的に発信し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介している P R 冊子「イイ！いたみ」を一部リニューアルして 5,000 部発行し、市外からの来訪者の多い

	大型商業施設や公共施設、不動産事業者等で配布した。 また、本市への認知・来訪のきっかけ作りとして伊丹大使を活用した事業を実施した他、本市の魅力を市内外へ情報発信するとともに、引っ越し検討者で近隣市に居住している主に 20 代～30 代の子育て層をターゲットに本市の魅力を発信するために、Google リスティング広告と不動産紹介サイトを介した DSP 広告を活用し、本市シティプロモーションサイト「未来へつなぐまち伊丹」への誘引を図ることを目的とした事業を進めた。 その他、「清酒発祥の地 伊丹」のPRについては、令和 2 年 6 月に認定を受けた日本遺産の認知度向上及び観光客誘致に向けた動画による情報発信やイベント等を通じて行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、中心市街地をはじめとした本市への移住・定住に向け、様々な媒体を活用したシティプロモーション活動を継続して取り組むなど、住環境向上に資する事業を進めるとともに、令和 8 年度に策定を進めている、将来にわたり住み続けたいくなるまちを目指し策定するブランド戦略においては、まちの未来をデザインし、職員の広報力を高める専門人材を登用するなど、本市の魅力を新たに発信する事業を実施し、中心市街地を含めた市域全体における居住人口の増加を目指す。

⑦. 男女共同参画センター事業(伊丹市、NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	男女共同参画の拠点施設男女共同参画センター「ここいろ」において、市民活動・交流の支援事業や各種相談、啓発事業、情報提供を行い、性別にかかわらず全ての人が安心して地域社会で生き生きと暮らせるまちの実現を目指し、来街者の増加及びまちの定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は、男女共同参画に関するさまざまな講座やイベントを 72 件開催し、1,186 人の参加があった。また、女性のためのカウンセリングや就職・起業・資格取得への相談、男性のための悩み相談などを行い、521 人の相談があった。 その他、女性や男女共同参画に関する図書の閲覧や貸し出しを行

	うとともに、男女共同参画社会づくりを目指すグループや団体・個人の活動する場所や情報等を提供するなどの、市民活動支援も行っており、現在 4 団体の登録があり、施設内外で様々な取り組みを行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、中心市街地をはじめとした本市の男女共同参画の拠点として、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑧. まちなみ景観整備促進事業(伊丹市)

事業実施期間	昭和 59 年度～【実施中】
事業概要	兵庫県の一般市で初めて景観条例を制定した本市では、景観条例に基づいた落ち着いたまちなみ景観を形成することで、交流人口の増加及び来街者の回遊性を向上させることにより、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 7 年度は、景観法並びに景観条例に基づき、中心市街地内に設定された特定のエリア（景観計画区域）における建築物の新築等に係る届出は 8 件で昨年度の 0 件から増加した。引き続き中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	前計画期間中と同様に、年度によって当該助成・届出件数に差があるものの、引き続きまちなみ景観の形成を図るための、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑨. 安全・安心見守りカメラ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	全国で発生した子どもが被害者となる事件や、平成 26 年に市内で発生した局地的豪雨被害等から、安全・安心見守りカメラを平成 27 年度より順次設置し、犯罪への抑止力や事件・事故の早期解決等多目的に利用してきた。中心市街地に 45 台設置されたカメラをはじめ、市内 1,200 台の更新等を行うことで、安全・安心なまちづくりを推進し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び	国の支援措置なし

び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度は、これまで市民や関係機関から寄せられた意見等を勘案しながら、事業者との更新や配置場所等について協議を進めるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	機器の耐用年数が経過したため、令和6年度から令和7年度にかけて安全・安心見守りカメラを一斉に更新し今後も安定して稼働できる体制となった。これまでと同様に、犯罪の抑止、事件・事故の早期解決等を図るなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑩. まちなかミマモルメ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	安全・安心見守りカメラとあわせ、ビーコン受信器を整備し、ビーコン発信器を持った子どもの登下校や認知症高齢者の徘徊等の位置情報を、家族や保護者のスマートフォン等に通知するサービスを行うことで、安全・安心なまちづくりを推進することで中心市街地の定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和7年度は、市内に1,351台設置したビーコン受信機による位置情報通知サービスを行ってきた。 また、さらなる利用促進のため、小学校1年生を対象に無料キャンペーンを実施し、さらには認知症高齢者、障がい者（児）についても要件を一定クリアすれば無料で利用できるなど、現在5,614人が利用している。 子どもや認知症高齢者等が行方不明になり捜索が必要な場合に、捜索に協力するボランティア市民は2,825人になり、行方不明者の捜査を行うなどの、地域ぐるみの見守り体制が構築されていることから、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与している。
事業の今後について	今後も、「まちなかミマモルメ」のさらなる普及のため、ビーコン

て	受信機の設置・更新や利用者拡大を計画的に進めるなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
---	---

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、今後も居住環境の向上に資する「まちなみ景観整備促進事業」「安全・安心見守りカメラ整備事業」「まちなかミマモルメ整備事業」、などのハード整備を計画的に取り組む。

また、民間の児童クラブを誘致する事業を令和 7 年度に引き続き進めており、令和 8 年度には、新たに 2 か所開設予定。

その他、「シティプロモーション事業」では、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介した PR 冊子を刷新し、不動産事業者や各種イベント等での配布を通じて本市の魅力の情報発信を行うとともに、特に近隣市に居住している子育て世代をターゲットに、Google リスティング広告と不動産紹介サイトを介した DSP 広告を活用するなど、本市、中心市街地の魅力を発信し続け、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」や「いたみむっくむっくルーム」における様々な取り組みを通じて、居住環境の付加価値を高めさらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指していく。

さらに、将来にわたり住み続けたいまちを目指し策定するブランド戦略においては、まちの未来をデザインし、職員の広報力を高める専門人材を登用するなど、本市の魅力を新たに発信する事業を実施し、中心市街地を含めた市域全体における居住人口の増加を目指す。